



「新町西再開発は白紙撤回」を

前号の
続編

まじめに営業し、

生活している地権者を追い出して音芸ホール建設・許せない!



新町西再開発に反対している

新町西地権者の「生の声」

「まじめに営業し、生活している地権者を追い出して、音芸ホールを建設する。こんなやり方は止めてほしい」という声が、地権者をはじめ、多くの市民から噴出してきます。新町西再開発は白紙撤回させる以外道はありません。以下に、新町西再開発に反対している地権者の「生の声」を掲載します（NO九四の再掲）。

こだわりの営業をしてきた・正直に真面目に生活・営業しているのになぜ追い出すのか

私は、新町西再開発の開発区域から「私の店」を除外するよう、終始一貫して求めている地権者の一人です。

創業して三十二年、この地に新築

反対する地権者を強制的に立ち退かせる新町西再開発

再開発は、「反対する地権者」を、「地権者の三分の二の同意」があれば、徳島市も入った「組合」が、「法を盾」に強制的に立ち退かせることができる仕組み。かつては、暴力団等が「地上げ屋」になり、反対者を立ち退かしていました。その「現代版」です。

して十周年を迎えました。他店が八時間働けば自分は十時間働き、他店が十時間働けば十二時間働くというように、創業して最初の十年間は無休で営業してきました。また店舗建物についても、建設業者とアメリカまで足を延ばして構想を立て、現地で部材を輸入し建築しました。ソフト面でも、他店と違った個性でやってきました。このように、自分自身で「こだわりの経営」をしてきました。



この地に居を構え、店を構えて、家族一丸となって生計を立て、子や孫まで、将来を見据えた計画で

1さんのように除外を求め拒否し続ける原市政

「再開発に反対する地権者」は、Iさんのように新町西再開発の計画区域から除外してほしい（六家族）と原市長に申し入れていますが、「拒否」し続けられたまま「Iさんだけが、なぜ特別扱いなのか？」と怒りの声がたくさん挙がっています。

努力してきました。周りの誰にも迷惑や損害を与えたこともなく、正直に真面目に生活し、営業活動し、むしろ地域に貢献していると自負しております。家族が幸せに暮らしているのに、なぜ、この計画に取り込まれなければならないのか？ 今まで一生懸命築き上げてきた生活権、営業権、財産権が侵害されることは許されるべきではなく、また、精神的に受けるストレスには耐え難いものがあります。この地が気に入って、愛着があり、ここで生活を成り立たせています。この開発区域に組み込まれることを拒否していますが、ここを動かさなければ、組合や徳島市は私たちを、村八分のように



追い出すのでしょうか？

三代にわたって商売

再開発区域から除いて

私は三代にわたって、戦前より新町西一丁目で商売を営んでおります。



この度の新町西再開発は、音芸ホールが目的で、再開発の大切な目的の集客力はないと思われまます。中途半端な商店街をつくっても、今の時代、高い家賃を払い、従業員の給料を払い、高い共益費や電気代を払って、やっていける商売はありません。

この度の再開発は賛成者だけである、という説明でしたが、反対している我々も、再開発区域に組み込まれております。除いてほしいのです。今はどうにか生活できております

市民合意の「旧動物園跡地の音芸ホール」なら

「追い出し」で苦しむことはありません

新町西再開発に反対する『再開発反対地権者の会』は、住民投票条例案が審議されている最中の六月十三日、原市長と全ての市議に、「申し入れ書」を届けました。その申し入れ書の要

が、この計画では、すぐ破綻するのは目に見えております。一体誰が責任をとってくれるのでしょうか？ もう一度、よくお考え頂き、計画を中止して下さい。

一生懸命張り守った土地と創業百年の店 再開発には絶対反対

徳島新聞の『読者の手紙』 「私は亡き父母に、一生懸命張り守った土地と創業百年の店を託された、再開発事業予定地の地権者です。再開発には当初から絶対反対の立場です。再開発には問題点が多く、賛同できる絶対的な理由がない。どんなにいい条件を示されても同意しない。地権者は再開発賛成者だけでなく、当初から絶対反対の者も、私を含めてかなりいます」

原市長に「Iさんのように除外を」申し入れ

「I氏の住宅だけは計画区域から

除外するということ不公平を平然とやってのける行政には呆れております。この不公平についても

説明会、公聴会の折にも訴えて参りましたが、歯切れの悪い答弁に終始し、現在に至っております」と述べられています。

この問題は、本会議でも採り上げられましたが、市長は（除外をという質問には答えず）「ご理解を」という答弁を繰り返すだけ。一面に記載した通り、「強制執行で立ち退かせられる」からです。

活性化には程遠い新町西再開発

再開発推進役員も転出希望

目的に反したムダな事業

申し入れ書には「私も、この再開発計画が立ち上がったときより、計画区域から除外するよう一貫して申し上げて参りました。なぜならこの機会に処分して転出の地権者、活性化を唱える準備組合の役員の中にまでも転出希望者がいる」という再開発計画、それでは活性化にはほど遠いものです」と



述べられています。再開発区域内で「まじめに営業し、生活している地権者」の声 非常に重たい言葉です。

新町西再開発の事業目的は、中心市街地の活性化ですが、この新町西再開発事業は「目的に反したムダな事業」そのものです。

文化センターの改修や

旧動物園跡地のホールなら

地権者は苦しまない

申し入れ書には「私たちは、この地に居や店舗を構え、真面目に一生懸命働き、将来に夢を持って、子や孫のことを考えて将来設計をしております。三分の二以上の賛成があるからといって、何故、犠牲にならなくてはいけないのでしょうか？」とした上で、次のように述べられています。「徳島市が設置した市民合意の最終報告書の通り」市民合意の旧動物園跡地や、文化センターの耐震・リニューアルなら、これだけの地権者が苦しむことはありません」と。

原市長が、市民合意を踏み破って発進させた新町西再開発の音芸ホール、こんな「非道」はやめるべきです。



旧動物園跡地